

参考資料

1. 開園後の入園者数、市民参加イベントの状況	-----	1
2. モリゾー・キッコロの活用状況	-----	2
3. 愛・地球博の理念を継承するソフト計画案	-----	3
4. 公園マネジメント会議関連	-----	6

1. 開園後の入園者数、市民参加イベントの状況

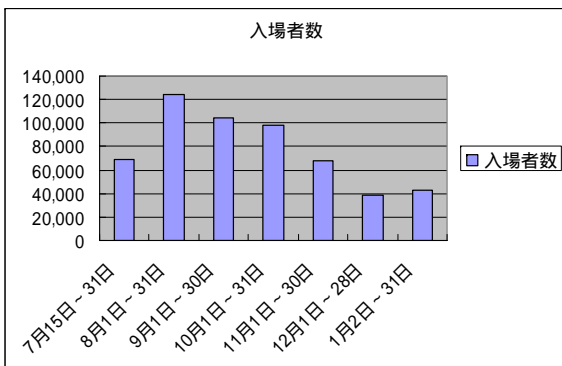
開催場所



開園後の入園者数

- 最大日は約12000人の入園者があった。
- リニモ利用者の内、公園利用はおおむね2割程度と想定される。

月 日	入園者数	日数	備考
7月15日～31日	68,600	17	
8月1日～31日	124,700	31	
9月1日～30日	104,600	30	
10月1日～31日	97,700	31	
11月1日～30日	67,700	30	
12月1日～28日	39,000	28	
1月2日～31日	43,200	30	
合 計	545,500	197	
入園者数の多い日 トップ3	11,500	9月24日(日)一周年イベント	
	11,200	9月23日(土)	"
	10,100	7月15日(土)	開園日



開催イベント

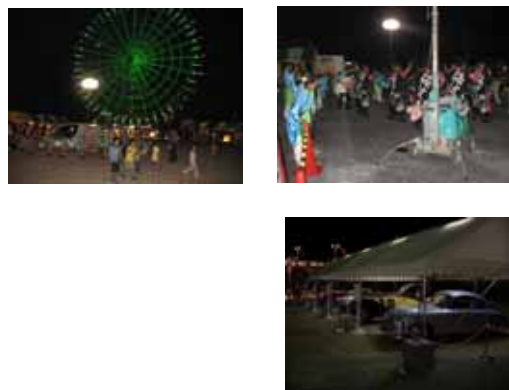
1. 愛・地球博記念公園・万博開幕1周年記念イベント (H18.9.22、23)

- モリコロパーク夜まつり
- 環境をテーマとする「ながくて灯路祭り」との連携を軸に、愛・地球博記念公園を夜間開放する。観覧車からの夜景や、夜店、演奏などを来園者に楽しんでいただくとともに、長久手温泉へのピストンバスを設けるなど、環境・健康・憩いがテーマのロハスの祭りを目指す。それにより、万博の理念継承の一環とする。

{ 内容・場所 }

博覧会写真展、映像展 円形広場、広場隣接の休憩所
 観覧車、ドミノパルク、ファミリースイガーなど遊戯施設の夜間営業 施設設置場所
 ながくて灯路まつり連携 園内にも灯籠を一部設置し、北西ゲートから遊歩道へ誘導する。
 出店(モリコログッズ、たこ焼き、モスバーガーなど)
 モスバーガー前の円形広場
 モリコロ着ぐるみの記念撮影
 観覧車のイルミネーション前
 太鼓演奏、よさこい踊り 芝生広場
 トヨタ・クラシックカー展示 観覧車のイルミネーション前
 「長久手温泉ござらっせ 愛・地球博記念公園」のピストンバスあり。

- 集結！愛・地球博のロボットたち
- 愛知国際児童館にて開催
 - ロボットステージの開催(ティラノサウルス、wakamaru、PaPeRo)
 - モリゾー・キッコロとの記念撮影 等



2. 植樹祭 (H18.10.22)

主催：愛知県
 企画・運営：特定非営利活動法人愛・地球博ボランティアセンター

【開催場所】
 愛・地球博記念公園(愛知郡長久手町)
 こどものひろば

- 【プログラム】
(1) 市民参加植樹(10:30～12:00)
 ●講演：「木と友達になろう」 10:30～11:00
 ～ジョン・キャストライト氏(エコロジスト)～
 ●植樹：(ソメイヨシノなど200本) 11:00～12:00

(2) ツリークライミング教室 10:00～16:00 (1回30分程度)
 参加実績

種類	参加者数	出席率	申込み数	備考
植樹	617人(187組)	0.93	655人(200組)	障害者枠9組を含む
ツリークライミング教室	44人	0.92	48人	8名は植樹にも参加
合計	653人		703人	617+44=661



3. 愛知万博メモリアル 第1回愛知県市町村対抗駅伝競走大会 (H18.12.2) (略称 愛知駅伝)

- 2005年に開催された「愛知万博」をメモリアルイベントを通じ次世代へ語り継ぐと同時に、愛知県内各市町村の交流、市町村合併後の一体化の促進、県民意識の高揚、県民スポーツの振興を主目的として実施した。

主催 愛知駅伝実行委員会
 【構成団体】愛知陸上競技協会、東海テレビ放送

共催 中日新聞社
 後援 愛知県、愛知県教育委員会 他
 参加チーム 63チーム(愛知県内全市町村)
 コース 「愛・地球博記念公園」内を発着点とする周回コース
 区間・距離 9区間 28.75km



2. モリゾー・キッコロの活用状況

「モリゾー・キッコロ」の登場条件等

博覧後の「モリゾー・キッコロ」は、海上の森に帰り、エコ活動の応援や環境問題を一緒に考えるときに登場する。



モリゾーは、森のおじいちゃん。キッコロは、森のこども。ふたりは、愛知県瀬戸市にある海上の森に住んでいる森の精です。森がいつもいきいきとして、自然のちからにあふれているのは「森の精」が住んでいるからです。

ふだんは人間の目には見えませんが、気をつけているとその存在を感じることができます。疲れている人の心に木漏れ日をとけたり、そよ風をおこしたり…彼らはたくさんの不思議なちからで、私たちを元気にしてくれます。

愛・地球博の開催中は会場で大活躍しましたが、閉幕とともに森に帰っていました。

そして、今度はみんなのエコ活動を応援したり、環境問題を一緒に考えたりするために、またみんなの所に登場してくれます。



< 7色のキッコロの仲間たち >
 ピンク色：花担当の妖精
 パ・ブル色：岩・鉱物担当の妖精
 茶色：土担当の妖精
 オレンジ色：木の実担当の妖精
 黄色：光担当の妖精
 水色：水担当の妖精
 緑色：木の葉担当の妖精

(愛・地球博マスター・ライセンス・オフィス「AMLO」ホ・ムベ・ジより)

モリゾーとキッコロの現在の住所は、「瀬戸市 海上の森 2005番地」

モリゾーの使用は、愛・地球博の理念との整合性や継承・発展に資するとして財団法人2005年日本国際博覧会協会が認めたものに限るとされている。

「モリゾー・キッコロ」の公園での活用状況

開園イベント、や植樹祭会場へのモリコロ着ぐるみ人形登場



第1期開園イベント



県民参加植樹祭



万博閉幕1周年記念イベント

園内施設へのキャラクター表示



園内案内板



自然体感遊具
エントランスゲート



温水プール内オブジェ



トピアリー



アイススケート場水面

モリコログッズの園内販売とオリジナルグッズ



園内グッズショップ
「モリコロパークショップ」



モリコロパーク
ピンバッジ

開園広告ポスターのデザイン



第1期開園用



第2期開園用

3. 愛・地球博の理念を継承するソフト計画案

イベント企画運営

1. 愛・地球博記念公園イベント1

目的：愛・地球博の感動・記憶を呼び起こし、県民交流の機会とするとともに、博覧会の理念や成果を発信し、未来につなげていく。

内容：愛・地球博の開幕2周年を記念し、9月25日頃に、博覧会の理念である「自然の叡智」や市民参加といった成果をテーマとしたイベントを、地元と連携し実施する。

参考例：世界の食の祭り（世界のアイスクリーム展）、ナイトイベント（みんなで見るお月見、あかりアート）など

スケジュール：平成19年9月25日頃

～愛・地球博記念公園イベント1～

○ナイトイベント(イメージ)

会場場所：大観覧車周辺
会場規模：15,000人程度
参加者：地元県民

ナイトイベント風景



大観覧車1



大観覧車2



クラシックカー展示



イベント行事(踊り)

愛・地球博記念公園平面図



圓路灯飾



モリコロ撮影

2. 愛・地球博記念公園イベント2

目的：愛・地球博の感動・記憶を呼び起こし、県民が交流する大規模な集客イベントにするとともに、博覧会の理念や成果を発信し、未来につなげていく。

内容：愛・地球博の開幕3周年を記念し、3月25日頃に、博覧会の理念である「自然の叡智」や市民参加といった成果をテーマとした大規模な交流メモリアルイベントを実施する。

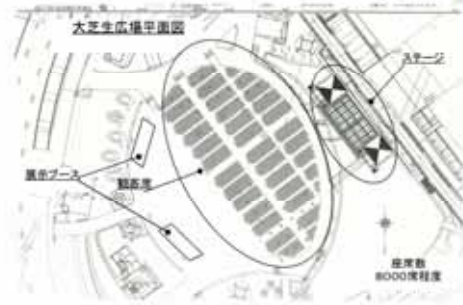
参考例：環境NGOと市民の集い（環境NGOの活動発表と交流会）、一市町村一国フレンドシップ祭り（県内および世界の民族芸能の祭典、市民参加コンサート）

スケジュール：平成20年3月25日頃（2日間程度）

～愛・地球博記念公園イベント2～

○ロハスコンサート(イメージ)

会場場所：大芝生広場
会場規模：8,000人程度
出演者：ロハス系アーティスト



コンサート風景



写真)「愛・地球広場」(愛・地球博開催時)

3. 植樹イベント

目的：園内の緑の再生を、県民参加やNPO団体との協働に行う。種からの育成作業を通して、参加者が自然・生命の力に学ぶ機会とする。

県民の参加やNPO組織との協働により園内のドングリを拾い集め育てる

内容：園内で採取したドングリを拾い集め、ポット等に種まきを行う。その後、苗木までに育成秋頃

参考例：モンゴリナラのポット苗を苗圃に植える（春頃H20以降）
スケジュール：秋

～植樹イベント～

○どんぐり祭り(市民参加)

会場場所：もりのゾーン等
会場規模：1部200人程度
参加者：一般公募県民、NPOなど

愛・地球博記念公園平面図



イベントイメージ

平成18年10月22日に行われた、県民参加植樹祭と同規模。下記はそのときの写真である。



県民参加者の受付テント



モリゾー、キッコロ人形を登場させる



集客状況



植樹状況(スコップで埋める)



植樹状況



育て方例



ステージ(舞台、賞状授与、司会者、看板等)

展示計画

1. 展示計画(地球市民交流センター)

- 目的：地球市民交流センターは、環境学習の場であるとともに、ロハスに関わる情報発信の機能を有するため、常設的なアート性を持たせた展示計画を行う
- 内容：環境と交流に関するアート性を持たせた地球市民交流センターの展示計画および設計

展示計画イメージ

●エデンプロジェクトのアート展示



“地球にもしも植物がなかったら、こんな生活になります”という展示



コーラの消費により、環境に与える影響を説明する展示



古タイヤによるベンチ

エデンプロジェクトには植物の解説版や映像などはほとんど見られない。読むことよりも、見て、嗅いで、聞いて、味わって、触れることを重視している。アーティストたちによって、食料、建物、乗り物、音楽、おもちゃ、燃料、紙、薬など、植物と人間のかかわりをテーマにしたアート作品が各所に展示・演出し、それらを伝えている。

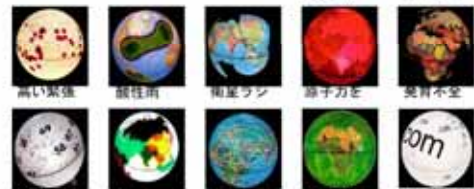
●地球環境を情報を伝える展示

地球規模の情報を身近に伝える地球儀アート
～地球の108の顔・ワールドプロセッサー～



テレビ所

チエルノ



高い緊張

個性酒

衛星ラン

原子力を

愛国不空

平均寿命

文明

難民ネット

アフリカ

イカト

●モリコロ展示

- 展示内容や関連WSへの活用、展示ナビゲーター
- モリゾー・キッコロの紹介コーナー



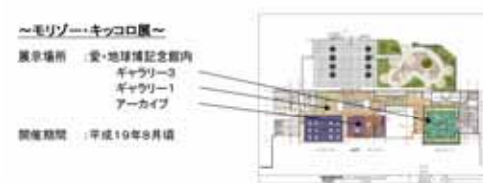
●食料はどの国から来るかを学ぶ展示



愛・地球博記念館企画運営

1. モリゾー・キッコロ展

- 目的：夏休み期間の家族連れをターゲットとして、来館者数のアップを図るため。
愛・地球博記念公園としてのパーク・アイデンティティ（PI）を形成し、同公園をアピールするためのシンボルとする。
- 内容：愛・地球博のマスコットキャラクターとして子どもたちに人気を博したモリゾー・キッコロを扱ったグッズ等を一同に集め、展示をする。
PRシンボルとしての公園のキャラクターを形成とともに、公園のシンボルとなる造形を作成する。
- スケジュール：平成19年8月頃



展示及び演習物：モリゾー・キッコロのキャラクターグッズ（約3000点を所有）

(参考) 展示グッズ



造形等制作：モリゾー・キッコロのシンボルとなる造形物制作

(参考) 造形物例



2. 「わたしの思い出、愛・地球博」展

- 目的：人々の記憶に刻まれた博覧会の記憶を呼び起こし、語り伝え、未来につなげていく。
思い出グッズ等の提供を県民から募ることにより、参加意識を高めるとともに、交流の喜びと楽しさを実感する。
来園者が減少する冬季に開催することにより、来園者数の増加を図るとともに、3月25日頃開催予定の開幕3周年イベントにつなげていく。
- 内容：愛・地球博を訪れ、思い出を作った来場者から、思い出のグッズ、写真、逸話等を募り、ギャラリーで展示し、博覧会を懐かしむとともに、博覧会の記憶に新たな1ページを加えていく。
グッズ等の提供者との連携を深め、今後の博覧会を軸としたネットワークづくりのきっかけとする。
- スケジュール：平成20年2月頃

3. 展示物資料収集事業

- 目的：愛・地球博の展示物についての情報を集め、収蔵品（展示物）に込められたメッセージ等の充実を図る。
- 内容：博覧会に展示されたものの、会期終了とともに方々に散ってしまった、あるいは滅失してしまった当時の展示物、展示物に関する情報を収集、整理し、アーカイブの充実を図る。
収集された情報はアーカイブに蓄積され、一般公開（検索情報）される。
事業成果は記念館で開催される別イベントと連携し、記念館での企画展示につなげていく。
情報提供者との連携を深め、今後の博覧会を軸としたネットワークづくりのきっかけとする。
- スケジュール：通年事業（3月頃、成果取りまとめ）

県民公園づくりの展開

●県民公園づくり空間

・持続可能な社会づくり、「サステイナブル」に関わるテーマに基づいた県民協働による公園づくりの場、県民公募型ワークショップにより、つくる過程を大切にしながら少しずつ整備を進める

【運営プログラム】

サステイナブルをテーマとしたビレッジ(資源循環、自然エネルギー活用の体験村)づくり

～間伐材を使つての公園施設ベンチ、案内板、炭づくり、野鳥の家づくり、落ち葉を使つての堆肥づくり、森の遊び場づくり、昆虫のすみか穴掘り、風車づくりによるエネルギー体験など～

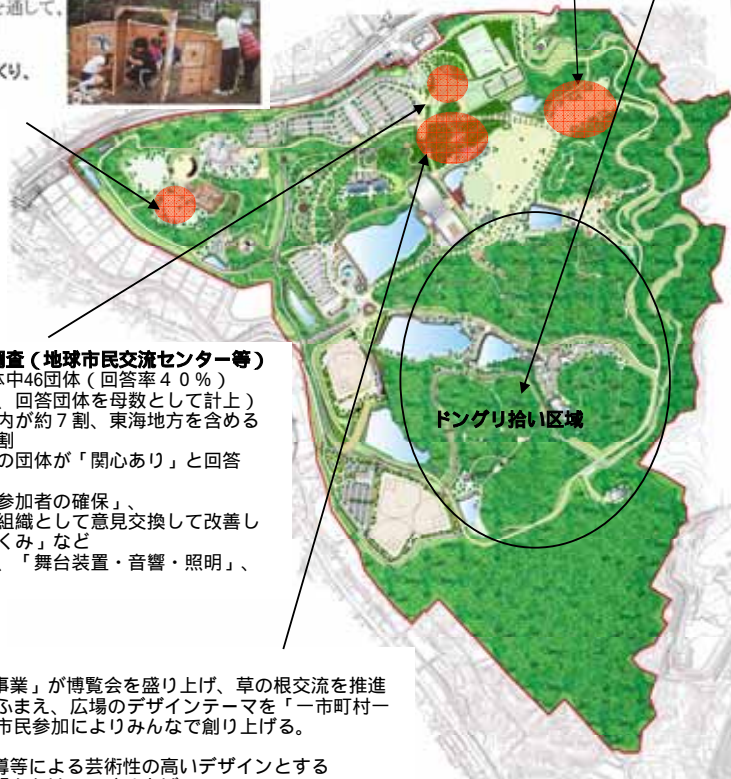


●県民公園づくり空間

・子どもたちがものをつくる体験を通して、創造性を高めるワークショップ空間

【運営プログラム】

遊びの王国づくり、物語ひろばづくり、郷土の玩具づくり



NPO等への公園活用に関わる意向調査(地球市民交流センター等)

- ・回答を得られた団体数 : 116団体中46団体(回答率40%)
(以下、回答団体を母数として計上)
- ・団体の所在地 : 愛知県内が約7割、東海地方を含めると約8割
- ・本公園での活動参加意向: 約8割の団体が「関心あり」と回答
- ・希望条件
 - ・ソフト面: 「活動内容の広報と参加者の確保」、「NPOなどが自立組織として意見交換して改善しながら運営するしくみ」など
 - ・ハード面: 「屋根付の大空間」、「舞台装置・音響・照明」、「椅子や机」など

フレンドシップ広場

・「一市町村一団フレンドシップ事業」が博覧会を盛り上げ、草の根交流を推進した象徴的な事業であることをふまえ、広場のデザインテーマを「一市町村一団フレンドシップ事業」とし、市民参加によりみんなで創り上げる。

【整備手法】

- ・デザイナー、専門家の参加・指導等による芸術性の高いデザインとする
- ・広場、樹林地とも市民参加で時間をかけてつくり上げる
- ・樹林整備は、ボランティアの参加のもと、公園内既存樹林であるモンゴリナラ等を実生からも育成

森づくりプロジェクト

「アイデアのひろば」では、「フレンドシップ広場」や「地球市民交流センター」周辺に、雑木林を育成することとしている。

その一貫として、県民との協働により、地域固有種であるモンゴリナラを中心としたドングリ実生から雑木林を育成するプロジェクトを提案するものである。

●コンセプト

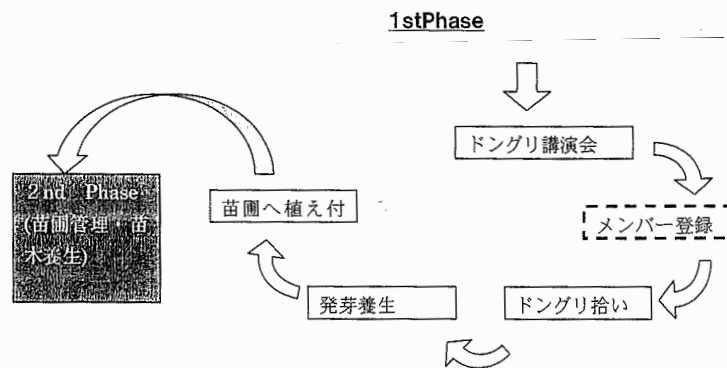
- 県民参加、県民協働を推進した、県民の力による森づくりを行う。
- 県民で育樹活動をおこなう、息の長い活動を目指す。
- 植樹・育樹という環境に対する子供への啓発活動を通して、親も参加してもらう子供から大人までの活動展開を行う。実から苗を育て
- 既存樹林と連続性を図り、公園内の緑のネットワーク形成を図る。

●展開方法

- ・愛・地球博記念公園で採取したどんぐりの実(モンゴリナラ、コナラ、アベマキなど)を育て苗木づくりを行う。
- ・植樹から育樹まで息の長い活動にすることから、メンバー制や周辺地域の小学校、PTAへの里親制などの導入を図る。
- ・苗木は、公園内の未利用地を圃場として活用したり、小学校などで環境活動として育ててもらったり、公園内の地生種を苗木として採取するなど、多岐にわたって苗木づくりを行う。

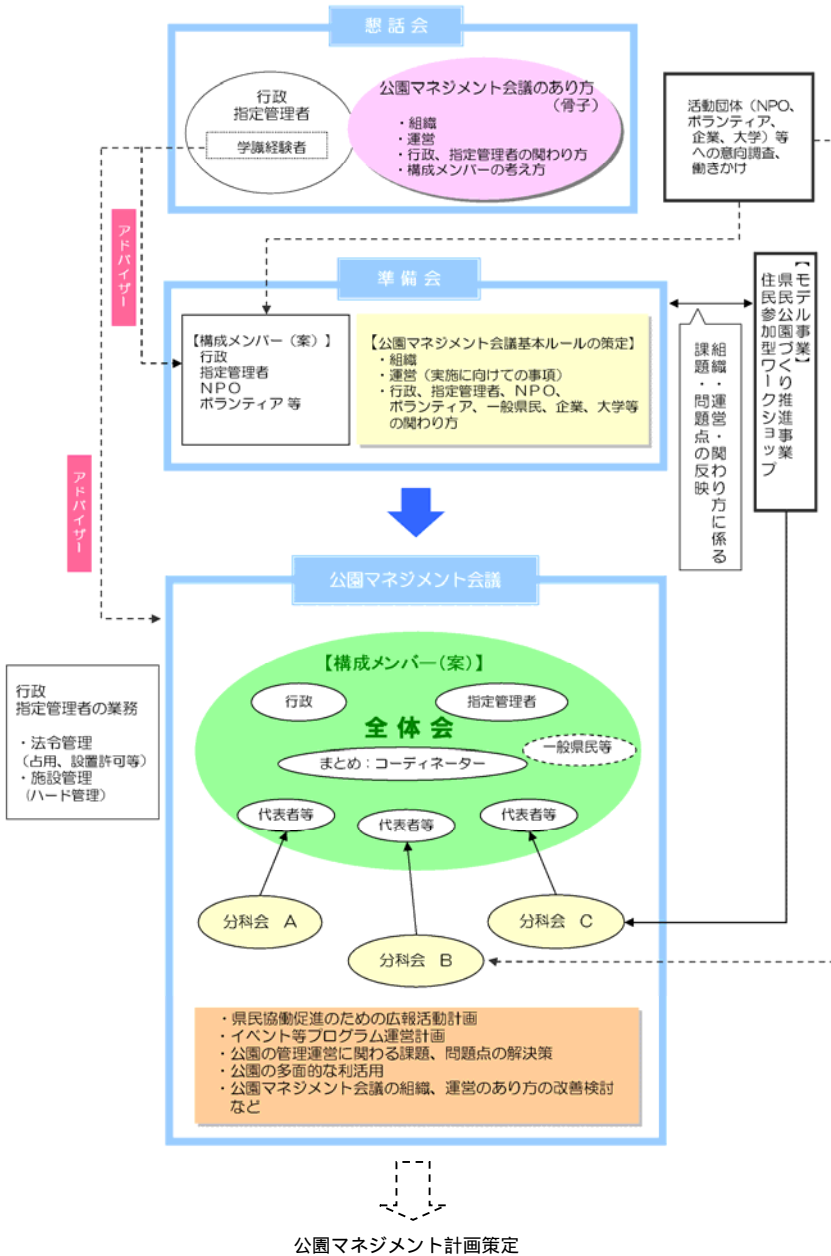
●しくみ

①活動



4. 公園マネジメント会議関連

公園マネジメント会議の設置



兵庫県における公園管理運営協議会の事例

(表-2) 兵庫県立都市公園の「管理運営協議会」等の設置内容と特長

公園名(名称)	①舞子	②西武庫	③甲山	④播磨中央	⑤一庫	⑥有馬富士	⑦赤松野野	⑧丹波並木道
協議会等名称注1)	『利用活性化懇話会』	『管理運営協議会』	『北山観察池地境委員会』	『管理運営協議会』	『運営協議会』	『運営計画協議会』	『管理運営協議会』	『計画協議会』
協議会の設置年月	平成14(2002)年10月	平成14(2002)年11月	平成15(2003)年10月	平成15(2003)年11月	平成14(2002)年4月	平成13(2001)年4月	平成15(2003)年11月	平成15(2003)年8月
設置目的注2)	利用促進方針、管理運営等について協議を行うこと。	公園施設の再整備実施のため、市民の参画と協働により、公園の利活用及び住民参加型の維持管理を目的とした公園整備計画を策定すること。	北山観察池周辺の環境保全とレクリエーション利用の調和を図るため、管理運営のあり方について検討し、基本方針をまとめること。	市民の参画と協働による公園の管理運営をめざし、管理運営のあり方検討、承認協議、承認協議区域の整備方針検討等をおこなうこと。	市民参画型の公園として、管理運営方法について協議し、公園管理者に提言すること。	市民参画型の公園計画及び管理運営について協議し、管理者に助言すること。	利用促進方針、管理運営等について関係者相互間で協議を行うこと。	市民参画型の公園をめざすため、公園の計画策定について協議を行うこと。
協議会の所掌事務注2)	1) 利用促進方針 2) 管理運営方針のあり方検討	1) 公園の整備基本計画策定 2) 管理運営方針の検討	1) 北山観察池利用の基本方針検討 2) その他	1) 公園の管理運営のあり方検討 2) 主要区域の整備方針検討 3) 市民の参画と協働への具体的方策検討 4) その他	1) 公園の管理運営 2) 市民参画への具体的方策 3) その他 4) 公園利用に関するボランティア活動の支援	1) 公園の管理運営 2) 市民参画への具体的方策 3) 市民参画への具体的方策 4) その他	1) 各種スポーツ大会等の誘致及びイベントの企画等 2) 運動施設の利用促進 3) 施設の管理に努めること	1) 公園の計画策定 2) 計画区域を含む未整備区域のあり方検討 3) その他
協議会の構成等	学識者(5)、地域団体代表(4)、行政(3)、県外部団体(1)、計13人	学識者(2)、地域団体代表(7)、行政(2)、県外部団体(2)、計19人	地域団体代表(11)、関係団体代表(9)、行政(1)、県外部団体(2)、計23人	学識者(1)、地域団体代表(1)、個人(9)、行政(5)、県外部団体(1)、計15人	学識者(1)、個人(10)、行政(5)、県外部団体(3)、計17人	学識者(5)、関係団体代表(1)、個人(4)、行政(5)、県外部団体(2)、計18人	地域団体代表(8)、個人(4)、行政(1)、計13人	学識者(2)、地域団体代表(1)、関係団体代表(2)、個人(2)、行政(1)、計8人
協議会の目的、所掌事務の特性	計画	整備	維持管理	運営管理	利用促進	月会報		

注1) 名称等は、各協議会等名称の名称にそれぞれ異なるが、注2) ここでは設置目的、協議会の所掌事務等の内容は、それぞれ協議会の設置要綱、規約等に基づいて記述しているが、概観には幅広い議論がなされている。

出典 住民の参画と協働による都市公園の整備・管理運営手法のあり方と今後の方向性についての一考察 橋利光、増田貴志 兵庫県土整備部街づくり局公園緑地課 (第46回日本公園緑地全国大会)

3-2. パークマネジメントの考え方『森の円卓会議』へ

本公園で想定される管理運営業務は、大きく「つかう=利用」「つくる=整備」「まもる=維持管理」「森を活かす=統括」の4つに分類される。行政は「つくる」「まもる」にその責任や業務の軸足を置き、住民は「つかう」「応援する」「つなぐ=育てる」に軸足を置く。重なり合う部分は双方協議が必要となる。また、公園内の森の管理や活用を全般的に把握し公園利用をすすめられる中核的な人材(パークマスター)の育成・設置・制度化も必要である。茨城県古河市総合公園では、1999年にいち早く公園管理を行う(財)古河市民公社にパークマスターを設置し活動を続けているが、現在は予算面で厳しい状況に置かれている。一方、有馬富士公園では県立人と自然の博物館が行政と住民をつなぐ中間組織として運営面の調整をしており、意識の高い住民と行政とのパートナーシップを組み主体的に公園運営を担っていくためのしくみづくりを検討している。

本公園では、このような先進事例を参考に、開園予定時期の社会状況の変化も鑑み、現場で起こる様々な課題を、関わる人々ができるだけ共有し即座に問題解決がはかれる調整・検討・承認の第三者組織として『森の円卓会議』を設置予定である。現在の管理運営協議会から、現場レベルの実践を通じた意見交換可能な場へと徐々に移行することを想定している。

出典 公園整備とともにすすめるパークマネジメント計画 小林電子 (株)生活環境文化研究所 (第46回日本公園緑地全国大会)